

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社ミットヨ 呉工場

(2) 事業所の所在地

広島県呉市広古新開6丁目8番20号

(3) 業種

精密測定器製造業

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成30年度(2018年)を基準年度とし、令和元年(2019年)から令和12年度(2030年)までとする。

3 計画の基本的な方向

環境に対する私達の行動

ミットヨグループは、「精密測定で社会に貢献する」を経営理念として掲げ、サステナビリティを重要な経営テーマとし、持続可能な社会を目指しています。気候変動をはじめとした地球環境課題の解決にも貢献し、社会で必要とされる会社になることをさらに追求していきます。

1. 気候変動への対応

気候変動の要因である温室効果ガスの排出を削減するため、省エネ活動等を全社で推進し排出量を削減していきます。

2. 資源循環型社会の実現への貢献

有限な資源である水資源・天然資源を有効に活用し、廃棄物についても3Rを推進し排出量の削減を進めます。

3. 環境に配慮した製品・サービスの提供

全ライフサイクル(調達、製造、輸送、使用、廃棄)において、環境を考慮したものづくり、サービスを提供していきます。

4. 製品・化学物質の安全確保

有害な化学物質の排出量抑制のため、代替品への変更や使用量削減を実現し、提供する製品・サービスでの安全を確保していきます。

5. 自然環境・生物多様性への配慮

豊かな生活や事業の基盤となる地球の自然環境と生物多様性を維持していくための企業として対応可能な保全活動を推進していきます。

6. 環境マネジメントシステムの構築・維持

事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を低減させるために環境マネジメントシステムを構築・維持し、環境負荷を低減していきます。

4 温室効果ガスの排出状況(二酸化炭素換算)

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 3 0 (2018) 年度	令和 6 (2024) 年度
二酸化炭素	4, 390	4, 446

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 () 年度	令和 () 年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 () 年度	令和 () 年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (H F C P F C S F ₆ N F ₃)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成30(2018)年度)	削減目標		目標年度 (令和12(2030)年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂	4,390	50.0	2,195	2,195
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方	二酸化炭素排出量を2030年までに2018年度比で50%削減する			

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量(t-CO₂)、原単位量(kg等)、削減率(%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和 () 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂							
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	-	-		0.0	-	-	
目標設定の考え方							

※ 削減率(d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置及び目標並びに具体的な取組

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素排出量を2030年までに2018年度比で50%削減する	・ 2022年～2026年までにグリーン電力調査・準備期間 ・ 2027年1月～グリーン電力導入 ・ 2024年を基準に2025年は2%削減
2	エネルギー使用量削減 (地球温暖化防止)	原油換算エネルギー使用量を生産高原単位で2024年度を基準に2025年度は2%削減する。	・ 改善活動に依る生産性の向上、不良数不良率の削減。 ・ 身近な省エネ活動の推進(暖房便座カバーは降ろす) ・ 電力監視システムに依るムダの発見と対策実施。 ・ エアーリーク調査実施。

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1		
2		
3		

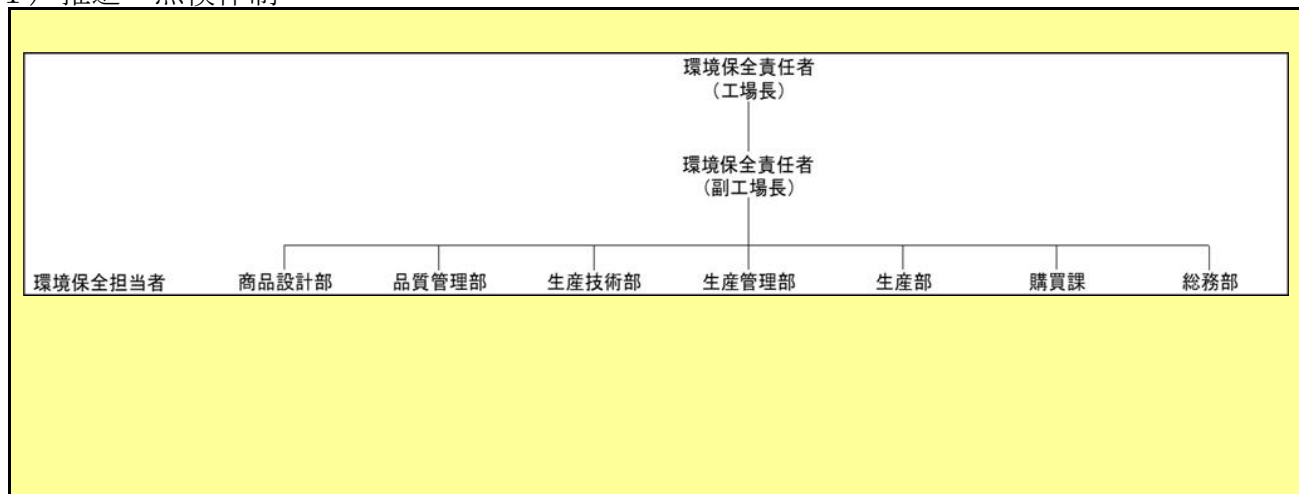
○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量を生産高原単位で2024年度を基準に2025年は2%削減する。	・ 部品納入荷姿改善(通い箱化)に依る包装資材の廃棄物量削減。 ・ 改善活動に依る生産性の向上、不良数不良率の削減。
2	プラスチック削減	プラスチック排出量を2024年度を基準に2025年は2%削減する。	・ 部品納入荷姿改善(通い箱化)に依る包装資材の廃棄物量削減。 ・ プラスチックの有価物化

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

エネルギー使用量/廃棄物排出量/温室効果ガスの排出量の把握, 結果を定期的に全社環境事務局へ報告。

(3) 計画書等の公表

年度環境報告書にて、事業活動と環境負荷をミットヨグループの事業活動による環境負荷量をミットヨホームページのサステナビリティ・CSRにて公開。